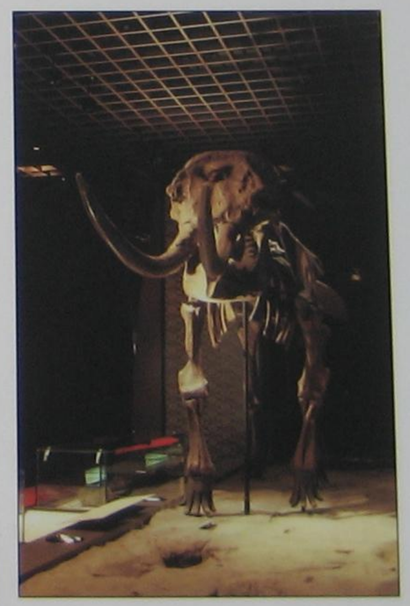
アカシゾウ発掘地

アカシゾウ発掘地

アカシゾウ（アケボノゾウ）

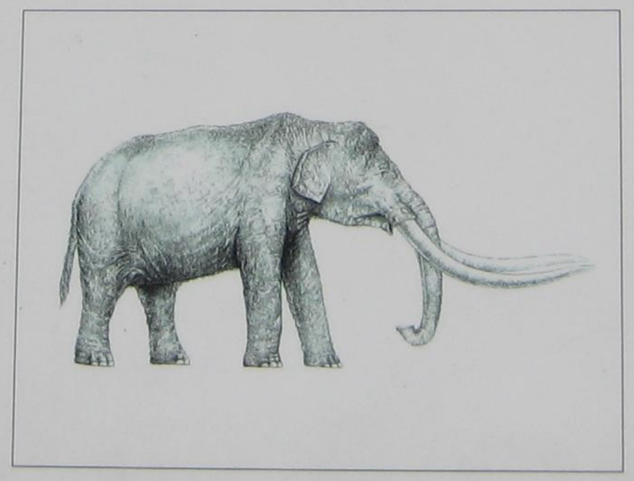
昭和三五年（一九六〇）、当時中学生であった紀川晴彦氏がこの海岸の崖からゾウの牙の化石を発見した。その後、同地点を一人で掘り続け、約六年間で九七点におよぶゾウの歯や骨の化石を採集した。昭和四一年（一九六六）には、大阪市立自然史博物館が発掘を引き継ぎ、新たな標本を加えた。これらの標本は同一個体であることがわかり、それをもとに初めてアカシゾウの全身骨格標本がつくられた。



アカシゾウ全身骨格標本

アカシゾウは、今から約一二〇～一八〇万年前に西日本を中心に関東地方に及ぶ広い範囲に生息していた。今のアジアゾウやアフリカゾウと違いステゴドンとよばれる絶滅したグループに属する。体高は約一・五mとゾウとしては小型であるが、一mほどの長い牙をもつ。アカシゾウは現在では、アケボノゾウとよばれることが一般的である。

アカシゾウがいた頃の明石は大きな湖の岸近くで、メタセコイアやスイショウなどの木が生い茂っていた。



アカシゾウの復元図

アカシゾウの化石が含まれていた屏風ヶ浦粘土層

平成十八年三月
明石市

明石原人発見地
明石原人発見地